



被災地の願いは消費増税も原発再起動もNO!



仮設住宅の前で訪問とバザーの準備をする
北区のボランティア部隊

ボラ隊が石巻の仮設住宅で支援と共に聞き取り調査

◆そね・池内も参加

北区の共産党は6月3日と4日と7日と8日の2度にわたり東北支援ボランティアを派遣しました。

3日はJR後援会の8名が、7日には地区委員会募集にこたえた9名が宮城県石巻市を訪問し、仮設住宅に支援物資をとどけ、要望聞き取りなどで奮闘しました。

◆手が届かなかった地区を初めて訪問

児童の7割が亡くなった大川小跡を見学しました。翌日はいよいよボランティア本番。石巻市内に134か所も点在する仮設住宅団地のうち、小規模な井内地区15戸、大瓜地区48戸、真野地区35戸を一軒ずつ訪問して食糧・洗剤などを配りながら要望を聞き取りました。

◆帰り道で「原発再稼働」

広場に、タオルや衣類、傘など日用品を並べると、すぐになくなります。まだまだ支援を継続する必要があると痛感しながら石巻を後にしました。

帰路の東北自動車道で福島県内を通過中、野田首相が「国民のくらしと命をまもるため」と言いながら「大飯原発再稼働」を宣言するニュースを聞きました。民主政権と自民・公明が談合しながら暴走する政治を今こそくいとめなければ。

◆被災地の現状は

現地責任者の安部さんに支援募金十数万円を手渡し、訪問で配る物資の袋づめに汗を流しました。

その後、地元議員の案内で、原発のある女川町、牡鹿半島の雄勝(オガツ)町、

◆避難生活にも格差が

また「幼い子もおり港町には戻れない。車で十分で買い物できるしこの近くに公共住宅を」という若い母親の声がある一方、「通院に一時半歩かない」という高齢者など被災者

北区からの募金を渡すそね・池内予定候補



地震被害予測・放射能対策で石原都政が露骨な手抜きの数々

共産党たぞえ議員が都議会代表質問

六月二二日、都議会の第二回定例会代表質問で、日本共産党のたぞえ民夫議員が代表質問に立ち、防災対策や原発・放射能、介護福祉政策、尖閣諸島問題などについて石原知事を追及しました。

都の地震被害想定の見直しに対して、立川断層地震などの想定を加えたのを評価しながらも、北区のように前回より被害予測が下がった地域が現れた原因を質しました。

本会議討論でのたぞえ議員



■起りうる被害を無視

①強風予測を15mから8mに下げ、火災の延焼被害・車両火災の危険や不燃化住宅への支援を軽視。
②津波の浸水、堤防の損壊、鉄道の脱線事故も「ゼロ」など、実態に合わない点の改善を求めました。

都は「精密な想定をめざし曖昧な予測ははずした」「阪神震災時より改善したので鉄道の脱線をゼロとした」など「精密さ」などを理由に被害予測を軽くしたり無視したことを事実上認めました。

■尖閣諸島で知事が拍手？

たぞえ議員は、原発都民投票を敵視する知事の姿勢や、尖閣諸島「買い取り」問題、介護家族「ケアラー」問題などを質問。尖閣問題では不当な中国政府に対する党の見解に、知事が拍手する場面もありました。

25万ベクレルが発見されても除染「必要なし」!?

都立水元公園で、6月の都議団の精密測定により1キロの土壌から毎時25万ベクレルを超えるセシウムが見つかりました。たぞえ議員が「公園なので衣服やくつに付着する危険もある」と指摘すると、大野環境局長は「福島で学校でも付着による内部被ばくは問題にならない」などと言いつつ逃げました。

■いこじな姿勢に与党席もヤジ

たぞえ議員は①都の態度では高濃度があっても発見できない ②広域汚染以外は除染拒み続ける姿勢、③安全根拠のない国の基準にしがみつく矛盾の3点で再質問しましたが、子どもや都民の安全より自らの落ち度を正当化する都の答弁に、与党席からも「おかしいぞ」のヤジが飛びました。

そねはじめ交友録 <その三十九>

他党区議でゆいいつ胸襟を開いてくれた永井さん

私の区議六年間は政治家として未熟で、本会議質問ではリサイクルや環境・まちづくり、国立病院存続問題などは政策的にも実績を上げましたが、区の幹部や他党議員の挑発などにすぐ引っかかり、苦い思い出の多い時代でした。当選直後の決算委員会で勇んで「日の丸・君が代」問題を正面から質問すると、午後の質疑で自民党のベテランがいつせいに反撃してきたので、私は身震いしながら必死にヤジを入れ、中川大一人から「おちつけ」と肩をたたかれました。

白内障内レンズ問題では区を追及するあまりきつい言葉を口走り、公明の委員長から「議員の品位に欠ける」と注意されたり、次の委員会では自民党長老議員の「今回見送れば次は賛成」かのような発言でつい「では今回は保留でもいい」などと発言し、後で叱られたり失敗だらけでした。

他党の区議でゆいいつ胸襟を開いてくれたのが同じ室蘭出身の永井四郎さんでした。現役の時は、私が「バブル経済の土地や住宅高騰で青年層の区外流出をくい止めるため青年に家賃補助を」と質問すると、「個別のバラマキ補助をやるくらいなら出ていく者を拒む必要ない」と与党議員として真っ向から反論。

しかし永井議員が引退し消防団長を務めておられたころから、都議に初当選した私に挨拶の機会を与えてくれたり、会うたびに励ましをいただきました。私の母方の祖父が、室蘭で自民党の市議を務めていたこともご存じだったようです。3年前に祖父の墓参りで室蘭を訪ねると、地元から鳩山首相が誕生したばかりなのに町は閑散としてお祝いムードはなし。永井さんだったらどんな思いでこの光景を見たかと懐かしさがこみ上げてきました。



09年9月に訪ねた室蘭の繁華街。すぐそばに鳩山会館がそびえていました。